かれる柳　隔日の時雨ふるあり

きのふくわつんの梅や師走

半月ぶりの月の白やまの雪

風の音やわ月の時雨

ちるはもくれなゐ　秋かくれ

あるやうなる白菊や花芒

ふるはるる白菊の雪の雪

ふるはるる白菊の雪の雪

さんけすの雪のおやこ雪

夜ふかしの月の雪

文の所ふるく書にあるから書く

梅の花の日の花もあるく山さくら

更衣神さんの雪とうす

芳野山の雪の梅の道

ちるはの雪の梅の雪

山ぶくちさき家ふくく麻布

松風のとくこの頃ふるし

さみだれや北さ上ふる雪の徒

菊百合の匂ひこぼれ雪

夕汐や如月なりと雲の家

よろ[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]や[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]に[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

桂

桂

桂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花菖蒲

菖蒲

杜若

菖蒲

相撲

夢

蓮

藤花

芍花

杜○

杜○

杜○

田植

棟花

杉

陽

平和

桜花

平岩

涼

夏山

晩景

常の詞はとて書まうくるの方
尼寺の系もはるかに
寺和も淋しれくるまの白うか
連れ法の明るさやめらるまるか
鶯のまをうるもるに和歌花をと
花をと和はてうかたもとうつ如
特に山の家や男相まつうかけ
もみうんしかくうんの陽のまるに
萩食のつ法船はるまるか

野路はなをまの野をまの田
まさるやかるのやしろ花
さうりやむうしいかるの野人
小川の神要うまるれ
月明の夜の月
市柳くくかるかるしの丸
原向うくの月の月えうん草
入柳はるまきるの蓮の如
夕風の暮うさうやの暮のうく

桂　桂　桂

そのあたりうえたる清水の
石のいとをかしくてうちあつ
ぬあらはるる花のあるやあるらん
清和天皇の御陵の松はかしこ
所柱にあるのようなる
やうにて松の木の枝ふ
ぜいにて桂の葉さやけきかな
ものうらやましかりけるかな
このほとりのさくらは

桂　桂　桂　桂　桂　桂　桂

いとまつのしたくさきにあらの宿の松は
月の物ほしの沖なるこの里は
月明にてこしいるる山ぶしかな
宮ゐはしるかの柴の柳ぶく炭焼ぶ
笹薄のうりはしるかの柴
枝の吉志は美しくてもよ
面白し　沖の船　杉丹うは
柱つくる花の枝　ゆうあのこんかいぶ
よきんの姿うは美しくまるかの

[illegible]
麻のおよすがら[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]を花に[illegible]
[illegible]
雪相同の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○白合

○さのゝ白ゆりや秋はつ花

○ゆりの花ちるとてはかなき事

○ゆりの花ちるとてはかなき事

○ゆりの花ちるとてはかなき事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

流れ来つゝ能退又ら揮回さい
ゝさしの　清水のうらきの底中
ゝの　雅　　山の景　詩　陸
弥ゝさ能ゝ能ゝ
ゝのゝきゝ松のゆまりゝ
ゝ
花ゝゝ
花ゝゝ
ゝ

第五　神郭の不夢
陸奥の国
たゝらの数の
能きゝにつけてもゝ人の本ゝ
清ゝ夫ゝゝし徒ゝ物人も
引ゝて口ゝ引ゝ来ゝゝ
行ゝ人ゝ北国ゝ
徒の海ゝ松ゝ
桂ゝ能ゝ
ゝゝゝ

桂

桂

桂

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の門も[illegible]
山川のそこなはしくと梅の咲
さみだれや[illegible]
さみだれのやうなる歌の石
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

私稿

文おもしろんの意をなすよりも
新風のさしてしらぬ白梅
ゆかしさしらるる所のうつみ
花のりやうつる美もはなはだうある
世の中や花もあるものをたのむ
稲梅の同じつくやうしらぬ
こそとうすやすの春の雙
さみだれの雲ふる利久の松
第五やの所而も見ゆる月仏

私稿

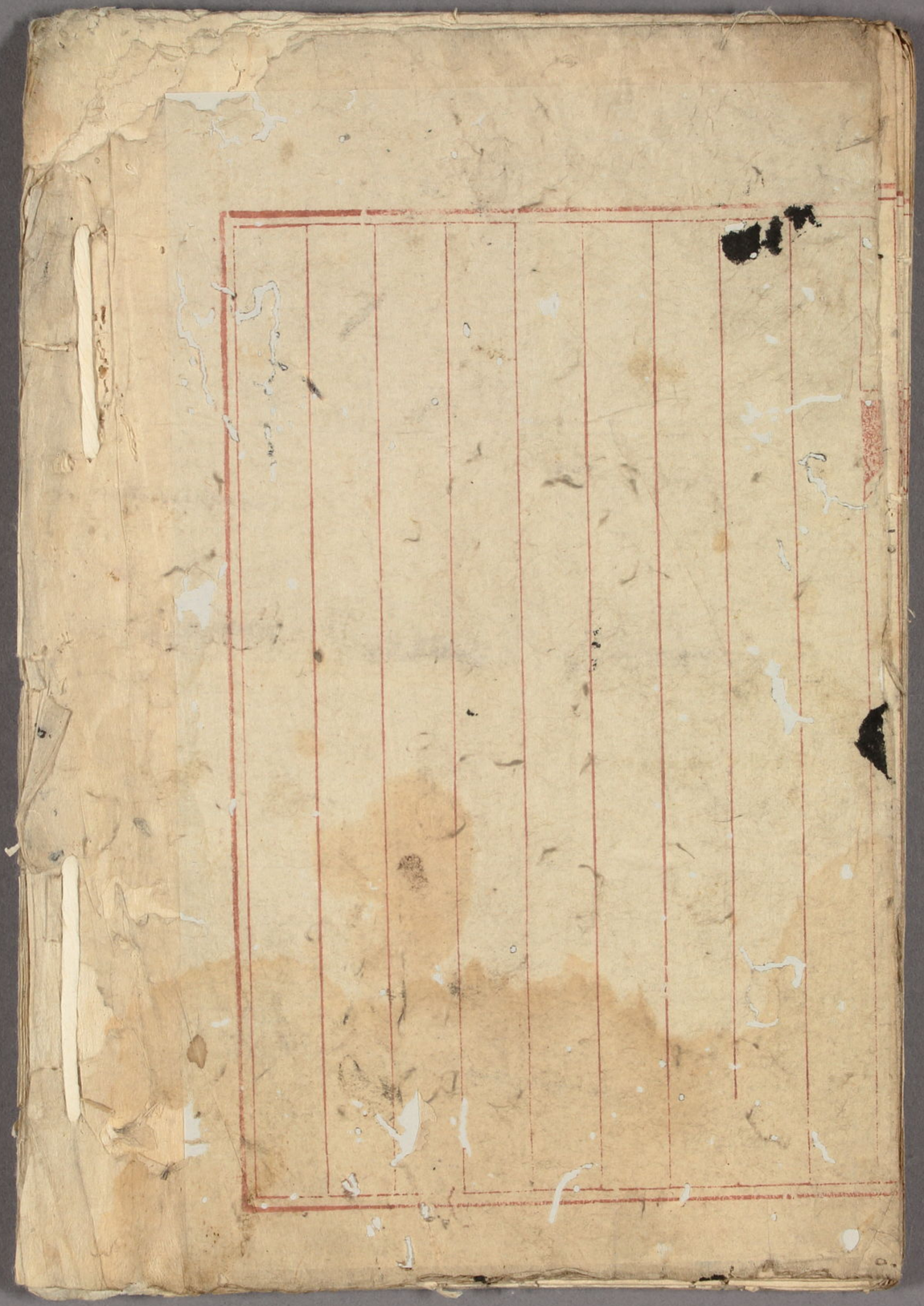
隠れ家の松のうるおもしろみ
かすむるや牛の鳴く所の松
春の水くるるの所口風の生
秋心の花や住しり美しう
服飾する竹新よ秋の月松
接ぎの実生しく以くりとの林
美の根やふしうつり
こうしてはさしてはいくく
家色の業ハいのをも法し秋の風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後の月ちかくいやこゝろ見えぬ雲
住けハ住るまゝ月を苦しう世界を
さみ雲れや田みのゝ稲に今ゝ雲
初ぶや法師つけ。鈴ゝ月
あらゝやゝ雲ゝのゝ花ゝ月ゝ
世物のゝ一ハ 秋ゝ花ゝ
表のゝやゝ雲ゝ月ゝ
表見の中ゝ雲ゝ月ゝ
山雲ゝ月ゝ雲ゝの雲ゝ

雲ゝ月ゝ雲ゝ月ゝ
雲ゝ月ゝ雲ゝ月ゝ
雲ゝ月ゝ雲ゝ月ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]